

【Example 2.1】

x の関数

$$I(x) = \int_1^e |\log t - x| \, dt$$

の $0 < x < 1$ における最小値を求めよ.

Point

被積分関数に絶対値を含む積分は絶対値を外して積分. 或いは, 以下の定理を利用する.

【解説】

$u(t) = \log t - x$ と置けば,

$$u(t) = 0 \iff t = e^x$$

即ち, $y = u(t)$ のグラフは上図であり,

$$\begin{aligned} I(x) &= -\int_1^{e^x} u(t) \, dt + \int_{e^x}^e u(t) \, dt \\ &= U(e) - 2U(e^x) + U(1) = 2e^x - (e+1)x - 1 \end{aligned}$$

ここで, $U(t) = t \log t - t - xt$ と表した.

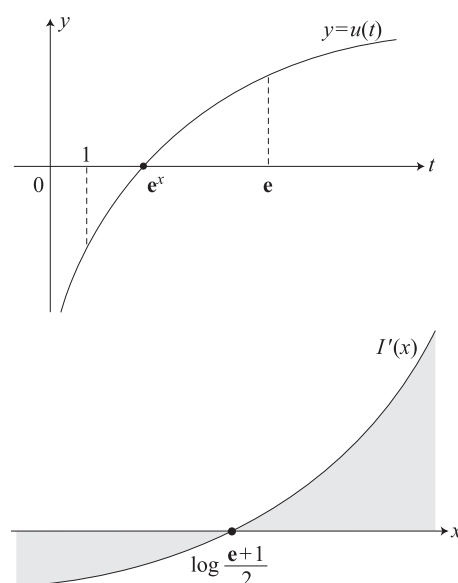
これより, $I(x)$ の極値を求めると,

$$I'(x) = 2e^x - (e+1) = 0 \iff x = \log \frac{e+1}{2}$$

従って, $I'(x)$ のグラフは下図であり,

$I(x)$ は $x = \log \frac{e+1}{2}$ で極小かつ最小.

$$\therefore \min I = (e+1) - (e+1) \log \frac{e+1}{2} - 1 = (e+1) \log \frac{2e}{e+1} - 1$$



[Note] 関数 $I(x)$ の最小値を与える x の値は次の定理により即座に求められる.

ただし, 最小値については $I(x)$ を定義する積分を実行しなければならない.

Theorem

$a \leq x \leq b$ で定義された x の関数

$$I(x) = \int_a^b |u(t) - u(x)| \, dt$$

は, $x = \frac{a+b}{2}$ で最小値をとる.

ここで, u は区間 $[a, b]$ において単調増加 (単調減少) な関数とする.

例題の $I(x)$ に対して、定理を適用してみる.

$$I(x) = \int_1^e |\log t - x| \, dt = \int_1^e |\log t - \log s| \, dt$$

ここで, $x = \log s$ と変換した. ($\because \log s$ の単調性)

定理により, $I(x)$ は $s = \frac{e+1}{2}$ で最小となるので,

$$s = \frac{e+1}{2} \iff x = \log \frac{e+1}{2}$$

即ち, $I(x)$ は $x = \log \frac{e+1}{2}$ において最小値をとることが確認された.

更に, より一般的な関数に適用できる次の拡張定理も成り立つ.

Theorem

$a \leq x \leq b$ で定義された x の関数

$$I(x) = \int_a^b v(t) |u(t) - u(x)| \, dt$$

を最小化する $x = m$ は次の式を満たす.

$$\int_a^m v(x) \, dx = \int_m^b v(x) \, dx \quad \wedge \quad a < m < b$$

ここで, u は $[a, b]$ において単調であり, $v > 0$ を満たす関数とする.

【Review 2.1.1】

x の関数

$$I(x) = \int_0^1 |t e^t - x| \, dt$$

を最小にする x の値とその最小値を求めよ.

[答] 最小値 $\sqrt{e} - 1$ ($x = \frac{\sqrt{e}}{2}$)

【Review 2.1.2】 92 東工大

x の関数

$$I(x) = \int_0^1 \frac{|t-x|}{t+1} \, dt$$

の最小値を与える x の値を求めよ.

[答] $x = \sqrt{2} - 1$

【Example 2.2.1】 - Cycloid -

半径 1 の円 \odot が原点 O で x 軸に接している。

\odot を右方向に滑らずに回転させるとき、最初 O にあった \odot 上の点 P が描く曲線を \mathcal{C} とする。

(1) \odot の回転角を t ($0 \leq t < 2\pi$) とするとき、 P の位置 (x, y) を t の式で表せ。

(2) \mathcal{C} と x 軸によって囲まれる図形の面積を求めよ。

Point

媒介変数表示された曲線と x 軸の囲む領域の面積は、

$$\int_{x_1}^{x_2} |y| \, dx = \int_{t_1}^{t_2} |y(t)| \frac{dx}{dt} \, dt$$

ここで、 $x_1 < x_2$ であり、 $x_1 = x(t_1)$, $x_2 = x(t_2)$ とする。

【解答】

(1) 下図により、

$$\vec{OP} = \vec{OO'} + \vec{O'P}$$

ここで、 O' は円 \odot の中心である。

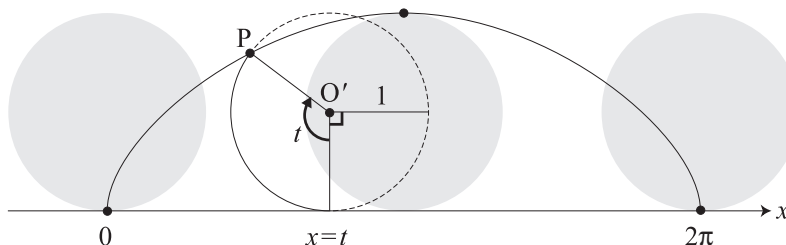
$$\therefore \vec{OP} = \begin{pmatrix} t \\ 1 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} \cos(-\pi/2 - t) \\ \sin(-\pi/2 - t) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} t - \sin t \\ 1 - \cos t \end{pmatrix}$$

従って、

$$\begin{cases} x = x(t) = t - \sin t \\ y = y(t) = 1 - \cos t \end{cases}$$

(2) 題意の領域の面積は、

$$\begin{aligned} \int_{x=0}^{x=2\pi} |y| \, dx &= \int_{t=0}^{t=2\pi} y(t) \frac{dx(t)}{dt} \, dt \\ &= \int_0^{2\pi} (1 - \cos t)^2 \, dt = 4 \times \int_0^{2\pi} \sin^4 \frac{t}{2} \, dt = 16 \times \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^4 \tau \, d\tau \quad \left(\because \tau = \frac{t}{2} \right) \\ &= 16 \times \frac{3}{4} \times \frac{1}{2} \times \frac{\pi}{2} = 3\pi \end{aligned}$$



[Note]

(2) の面積計算の最終行では,

$$\int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^n x \, dx = \frac{n-1}{n} \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^{n-2} x \, dx \quad \dots\dots(2.1.1)$$

なる積分漸化式を用いた。即ち,

$$I_n = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^n x \, dx$$

に対して部分積分法を用いると,

$$\begin{aligned} I_n &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^{n-1} x \cdot \sin x \, dx = \left[-\cos x \sin^{n-1} x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} + (n-1) \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^{n-2} x \cdot \cos^2 x \, dx \\ &= (n-1) \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^{n-2} x (1 - \sin^2 x) \, dx = (n-1)(I_{n-2} - I_n) \quad \dots\dots(2.1.2) \end{aligned}$$

(2.1.2) を I_n について解き,

$$I_n = \frac{n-1}{n} I_{n-2} \quad \dots\dots(2.1.3)$$

(2.1.3) において $n=4$ として,

$$I_4 = \frac{3}{4} I_2 = \frac{3}{4} \times \frac{1}{2} I_0 = \frac{3}{4} \times \frac{1}{2} \times \int_0^{\frac{\pi}{2}} dx = \frac{3}{4} \times \frac{1}{2} \times \frac{\pi}{2} = \frac{3}{16} \pi \quad \dots\dots(2.1.4)$$

一般に,

$$I_n = \begin{cases} \frac{n-1}{n} \times \frac{n-3}{n-2} \times \dots \times \frac{1}{2} \times \frac{\pi}{2} = \frac{(n-1)!!}{n!!} \frac{\pi}{2} & (n: \text{even}) \\ \frac{n-1}{n} \times \frac{n-3}{n-2} \times \dots \times \frac{2}{3} \times 1 = \frac{(n-1)!!}{n!!} & (n: \text{odd}) \end{cases} \quad \dots\dots(2.1.5)$$

となり, 積分計算が飛躍的に効率化される。

また, この漸化式は $\cos^n x$ の積分に対しても成り立つ。即ち,

$$J_n = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos^n x \, dx \quad \dots\dots(2.1.6)$$

に対して,

$$J_n = \begin{cases} \frac{n-1}{n} \times \frac{n-3}{n-2} \times \dots \times \frac{1}{2} \times \frac{\pi}{2} = \frac{(n-1)!!}{n!!} \frac{\pi}{2} & (n: \text{even}) \\ \frac{n-1}{n} \times \frac{n-3}{n-2} \times \dots \times \frac{2}{3} \times 1 = \frac{(n-1)!!}{n!!} & (n: \text{odd}) \end{cases} \quad \dots\dots(2.1.7)$$

(2.1.5), (2.1.7) は高次の三角関数の積分に対して非常に強力であるが, 積分区間が $[0, \pi/2]$ に限定される。

一般の積分区間に対しては, 次の漸化式を用いる。

$$\int_a^b \sin^n x \, dx = \left[-\frac{1}{n} \cos x \sin^{n-1} x \right]_a^b + \frac{n-1}{n} \int_a^b \sin^{n-2} x \, dx \quad \dots\dots(2.1.8)$$

【Review 2.2.1】 – Epicycloid –

原点を中心とする半径 4 の円を \mathcal{C}_1 、点 $(5, 0)$ を中心とする半径 1 の円を \mathcal{C}_2 とする。 \mathcal{C}_2 が \mathcal{C}_1 の周上を反時計周りに滑らずに転がり元の位置に戻るとき、最初に $(4, 0)$ にあった \mathcal{C}_2 上の点 P の描く曲線を \mathcal{C} とする。このとき、 \mathcal{C} が囲む図形の面積を求めよ。

[答] 30π

【Review 2.2.2】 – Cardioid –

原点を中心とする半径 1 の円を \mathcal{C}_1 、点 $(2, 0)$ を中心とする半径 1 の円を \mathcal{C}_2 とする。 \mathcal{C}_2 が \mathcal{C}_1 の周上を反時計周りに滑らずに転がり元の位置に戻るとき、最初に $(1, 0)$ にあった \mathcal{C}_2 上の点 P の描く曲線を \mathcal{C} とする。このとき、 \mathcal{C} が囲む図形の面積を求めよ。

[答] 6π

【Review 2.2.3】 – Trochoid –

両端を P, Q とする長さ $a > 1$ の棒をその一端 P が半径 1 の円板の中心に一致するように円板に貼り付ける。この棒の付いた円板を両端 P, Q がそれぞれ点 $(0, 1), (0, 1 - a)$ に一致するように xy 平面上に置き、その円板の周が x 軸上を滑ることなく正の向きに円板を転がす。 Q の描く曲線を \mathcal{C} とするとき、次の各問いに答えよ。

(1) 円板が角 θ だけ回転したときの Q の座標は、

$$x = \theta - a \sin \theta, \quad y = 1 - a \cos \theta$$

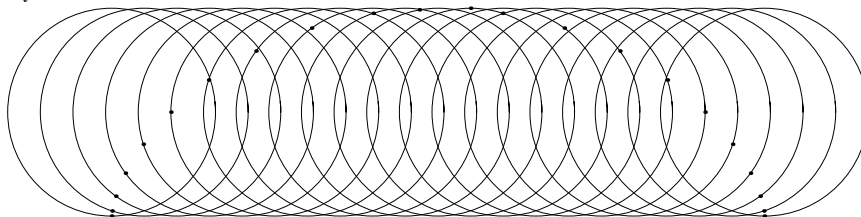
と表せることを示せ。

(2) 円板が一定の速さで転がるとき、 Q の速さが最大となる θ の値を求めよ。

(3) $a = \frac{\pi}{3}$ のとき、 \mathcal{C} と y 軸で囲まれる部分の面積を求めよ。

[答] (2) $\theta = \pi$ (3) $\frac{\pi^3}{108} + \frac{\sqrt{3}\pi^2}{72} - \frac{\pi}{6}$

Cycloid...



【Example 2.2.2】 - Involute -

原点を O とし, 平面上に点 $A(0, 1)$, $B(0, 2)$ をとる. OB を直径とする半径 1 の円の $x \geq 0$ の部分を Γ とする. 長さ π の糸が一端を O に固定して Γ に巻き付けてある. この糸の他の端点 P を引き, それが x 軸に達するまで緩むことなく解いていく. 糸と半円の接点を Q とし, $\angle BAQ = t$ とするとき, P が描く曲線 \mathcal{C} と x 軸および Γ で囲まれる図形の面積 S を求めよ.

【解説】

変数 t が $\Delta t > 0$ 増加したときの図形 $QQ'P'P$ を考える.

円弧 QQ' は, Δt が十分小ならば Q における接線の一部と見なしてよく, 3 点 Q', Q, P は同一直線 (Q における接線) 上に乗る. この線分 $Q'P$ の長さは $t + \Delta t$ であるから, 図形 $Q'P'P$ を中心角 Δt の扇形と見なして, その面積 ΔS は,

$$\begin{aligned} \Delta S &= \frac{1}{2}(t + \Delta t)^2 \Delta t \\ &= \frac{1}{2}(t^2 \Delta t + 2t(\Delta t)^2 + (\Delta t)^3) \cong \frac{1}{2}t^2 \Delta t \quad \dots\dots(2.2.1) \end{aligned}$$

これをを図形 $QQ'P'P$ の面積の一次近似と考えてよいので,

$$S = \int_0^\pi \frac{1}{2}t^2 dt = \left[\frac{1}{6}t^3 \right]_0^\pi = \frac{\pi^3}{6} \quad \dots\dots(2.2.2)$$

[Note]

「一次近似と考えてよい」とは, Δt の二次以上の項を無視することである. 即ち, $t \rightarrow t + \Delta t$ と変化したときに線分 PQ が通過する領域の面積を ΔS で表すと,

$$\Delta S = S(t + \Delta t) - S(t) = \frac{1}{2}(t + \Delta t)^2 \Delta t \quad \dots\dots(2.2.3)$$

(2.2.3) の両辺を $\Delta t > 0$ で割り, $\Delta t \rightarrow 0$ とすると,

$$\frac{dS}{dt} = \lim_{\Delta t \rightarrow 0} \frac{S(t + \Delta t) - S(t)}{\Delta t} = \lim_{\Delta t \rightarrow 0} \frac{1}{2}(t^2 + 2t\Delta t + (\Delta t)^2) = \frac{1}{2}t^2 \iff S = \int_0^t \frac{1}{2}t^2 dt \quad \dots\dots(2.2.4)$$

この方法に依らずに実直に計算する次の解法と比較してほしい.

【別解】

$$\overrightarrow{AQ} = \begin{pmatrix} \cos(\pi/2 - t) \\ \sin(\pi/2 - t) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \sin t \\ \cos t \end{pmatrix}, \quad \overrightarrow{QP} = -t \times \begin{pmatrix} \mathbf{d}(\sin t) \\ \mathbf{d}(\cos t) \\ \mathbf{d} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -t \cos t \\ t \sin t \end{pmatrix}$$

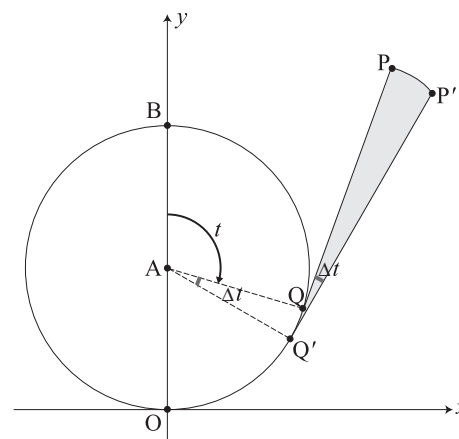
ここで, \overrightarrow{QP} は点 Q における円の接線方向のベクトルで, その長さは t である.

$$\therefore \overrightarrow{OP} = \overrightarrow{OA} + \overrightarrow{AQ} + \overrightarrow{QP} = \begin{pmatrix} \sin t - t \cos t \\ 1 + \cos t + t \sin t \end{pmatrix} \quad \dots\dots(2.2.5)$$

曲線 \mathcal{C} は x 軸の上側にあるので, \mathcal{C} と x 軸の囲む領域の面積は,

$$\int_{x=0}^{x=\pi} y dx = \int_{t=0}^{t=\pi} y(t)x'(t) dt = \int_0^\pi (1 + \cos t + t \sin t)(t \sin t) dt = \dots\dots = \frac{\pi^3}{6} + \frac{\pi}{2} \quad \dots\dots(2.2.5)$$

(2.2.5) から半円の面積 $\pi/2$ を除けば, (2.2.2) の結果を得る.



【Review 2.2.4】 – 等角螺旋 (Spiral) –

曲線

$$\begin{cases} x = e^{-t} \cos t \\ y = e^{-t} \sin t \end{cases} \quad (0 \leq t \leq \pi)$$

と x 軸の囲む領域の面積を求めよ.[答] $\frac{1 - e^{-2\pi}}{4}$ **【Review 2.2.5】 – Lemniscate –**

極方程式

$$r(\theta) = \sqrt{|\cos 2\theta|} \quad (0 \leq \theta < 2\pi)$$

で表される曲線によって囲まれる領域の面積を求めよ.

[答] 2

【Example 2.3】

(1) 正整数 n に対して、次の不等式が成り立つことを示せ.

$$\int_1^{n+1} \frac{1}{x} dx < 1 + \frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \cdots + \frac{1}{n} < 1 + \int_1^n \frac{1}{x} dx$$

(2) $5 < 1 + \frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \cdots + \frac{1}{n} < 9$ を満たす正整数 n を 1 つ求めよ.

Point

(積分を含む) 不等式の証明問題は面積による評価

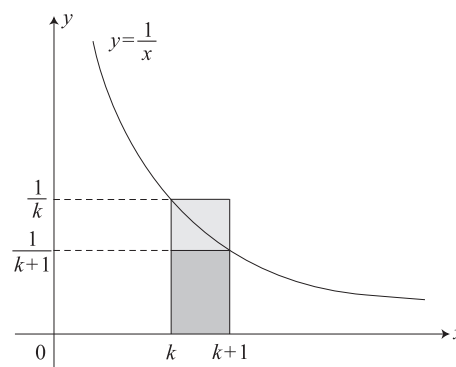
【解説】

(1) 曲線 $y = \frac{1}{x}$ の区間 $[k, k+1]$ における小長方形の面積、
曲線と x 軸の囲む部分の面積、大長方形の面積を比較して、

$$\frac{1}{k+1} < \int_k^{k+1} \frac{1}{x} dx < \frac{1}{k} \quad \cdots \cdots (3.1)$$

(3.1) において、 $k = 1, 2, \dots, n-1$ について和をとると、

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^{n-1} \frac{1}{k+1} < \sum_{k=1}^{n-1} \int_k^{k+1} \frac{1}{x} dx &\iff \frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \cdots + \frac{1}{n} < \int_1^n \frac{1}{x} dx \\ \iff 1 + \frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \cdots + \frac{1}{n} < 1 + \int_1^n \frac{1}{x} dx &\cdots \cdots (3.2) \end{aligned}$$



同様に、 $k = 1, 2, 3, \dots, n$ について和をとると、

$$\sum_{k=1}^n \int_k^{k+1} \frac{1}{x} dx = \int_1^{n+1} \frac{1}{x} dx < 1 + \frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \cdots + \frac{1}{n} \quad \cdots \cdots (3.3)$$

(3.2), (3.3) により、

$$\int_1^{n+1} \frac{1}{x} dx < 1 + \frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \cdots + \frac{1}{n} < 1 + \int_1^n \frac{1}{x} dx \quad \cdots \cdots (3.4)$$

(2) (3.4) における積分を実行して、

$$\log(n+1) < 1 + \frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \cdots + \frac{1}{n} < 1 + \log n \quad \cdots \cdots (3.5)$$

ここで、 $2 < e < 3$ であるから、

$$\begin{cases} 5 = \log e^5 < \log 3^5 < \log(n+1) \\ 1 + \log n < 1 + \log 2^8 < 1 + \log e^8 = 9 \end{cases} \quad \cdots \cdots (3.6)$$

(3.6) により、 $3^5 - 1 < n < 2^8$ を満たす n を 1 つ決めればよいので、

$$n = 243, 244, 245, \dots, 255 \quad \cdots \cdots (3.7)$$

【Review 2.3.1】 97 京大

(1) $0 \leq \alpha < \beta \leq \frac{\pi}{2}$ のとき, 次の不等式を示せ.

$$\int_{\alpha}^{\beta} \sin x \, dx + \int_{\pi-\beta}^{\pi-\alpha} \sin x \, dx > (\beta - \alpha)(\sin \alpha + \sin(\pi - \beta))$$

(2) 次の不等式を示せ.

$$\sum_{k=1}^7 \sin \frac{k\pi}{8} < \frac{16}{\pi}$$

[証明略]

【Review 2.3.2】

$u(x) \geq 0$ ($x > 0$) を満たす単調減少関数 $u(x)$ について, 次の命題 (P), (Q) は同値であることを示せ.

$$(P) \lim_{n \rightarrow \infty} \sum_{k=1}^n u(k) \text{ は収束する} \quad (Q) \lim_{n \rightarrow \infty} \int_1^n u(x) \, dx \text{ は収束する}$$

[証明略]